

主 題	臀部の剥離処置、減少
副 題	ケアにひと手間プラスで剥離予防！

褥瘡対策	排泄後のケア	研究期間	6 ヶ月
------	--------	------	------

事業所	特別養護老人ホーム 日の出紫苑		
発表者：人見 友佳（ひとみ ゆか）		アドバイザー：山本 紀子	
共同研究者：田中 万喜			

電 話	042-597-1941	E-mail	hinodeshien@outoukai.or.jp
F A X	042-597-1949	U R L	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	平成 8 年、西多摩郡日の出町に開設。法人理念『人と社会に心安まる灯をとす』のもと、利用者 100 名ショートステイ 4 名の安全・快適な生活を援助している。武蔵村山市にデイサービス、大田区と世田谷区にグループホームと認知症デイサービスを開設。平成 26 年 7 月、豊島区に短期入所生活介護施設を開設し、ご利用者さんの多様なニーズに応えるべく法人として成長しております。
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

【研究前の状況】

日の出紫苑では、毎年褥瘡者ゼロを目標とし、褥瘡委員会を設置。

褥瘡委員会は、看護師 1 名、栄養士 1 名、ケアマネージャー 1 名、介護員 2 名からなる。月に 1 回、褥瘡発症者への対応を話し合っている。

【課題】

会議では、褥瘡を発症してからの対応、褥瘡の患部が悪化しないようにする対応は行っていたが、事前に褥瘡発症の予防に対する話し合いが十分になされていなかった。

褥瘡までには至らないが、臀部に表皮剥離を繰り返して発症する利用者様が多くいた。

表皮剥離が出来てからではなく、また表皮剥離が悪化して褥瘡の診断となる前に、日々の予防策が必要であった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

【目標】

臀部に表皮剥離を作らない、繰り返させない。処置者の人数減少。

【期待する成果・目的】

苑内、褥瘡発症者ゼロ。

褥瘡処置方法の見直し。

介護職ができる簡単な褥瘡ケア。

全職員の褥瘡予防に対する意識の向上。

《3. 具体的な取り組みの内容》

排泄動作に介助が必要で、感染の恐れがある褥瘡者以外を対象として、週 2 回の入浴後と起床時と臥床時の排泄介助時、また排便後に臀部へ白色ワセリンを塗布する取り組みを平成 25 年 10 月から始めた。

当苑における軟膏等の使用薬剤についての研修を介護職員全員に対して実施。

白色ワセリンの効果についての説明をした。

●白色ワセリンの効果

乾燥している肌は、傷つきやすく、傷を治すには、湿潤環境でなくてはならない。湿潤がなければ、上皮は形成しない。車イスに座っている状態が長いと臀部に圧や擦れが生じてしまう。

白色ワセリンは、保湿対策、皮膚の乾燥、及びバリア機能の喪失対策、擦れや摩擦軽減による皮膚の保護として効果がある。また、人体への影響が極めて小さく安全性が高い。

●使用量

臀部に白色ワセリンを塗布する際、1 回当たり 2g 程度使用。(医薬品処方)

●留意点

腸骨、仙骨に突出のある方は、腸骨、仙骨部を中心に塗布、排便が 1 日に数回ある方は、肛門周辺を中心に塗布、緩い便失禁がある方は、臀部全体的に塗布すると良い。

《4. 取り組みの結果と考察》

期間:平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

●臀部に白色ワセリン塗布の取り組み前の臀部処置人数

4 月:11 名 5 月:14 名 6 月:16 名
7 月:13 名 8 月:12 名 9 月:14 名
平均:13.3 人

●臀部に白色ワセリン塗布開始の臀部処置人数

10 月:4 名 11 月:3 名 12 月:1 名
1 月:2 名 2 月:2 名 3 月:1 名
平均:1.8 人

取り組み後、臀部への処置人数が大幅に減少。新しい取り組みを始めた為、始めの頃は短い間なら立位をとれる利用者様に対して、短時間で白色ワセリンを塗布する難しさ等の問題点があり、取り組みが職員に浸透するまで時間がかかった。処置人数が減少した結果を数値化することにより、職員も白色ワセリンの効果を実感し、協力的となった。

《5. まとめ、結論》

臀部に白色ワセリンを塗布することにより、同じ箇所に表皮剥離を繰り返していた利用者様の表皮剥離再発防止へと繋がった。白色ワセリンのみを全利用者様に統一して塗布を行った為、いくつもの軟膏塗布や複雑な処置や知識を必要とすることなく、介護職でも行える取り組みであった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

O49_介護職のできる褥瘡ケアと「医行為」について
たかせクリニック 鳥谷部俊
www.geocities.jp/pressure.../O49_jyokusougakkai2010.pdf

第 15 回 西多摩栄養管理研究会
(平成 25 年 9 月 7 日開催)
特別講演「在宅での褥瘡 栄養管理」
演者:北美原クリニック 岡田晋吾

著者:水原章浩 2011 年 1 月 27 日発行
「症例でみるラップ療法による褥瘡ケア」
日総研出版

《8. 提案と発信》

白色ワセリンは、赤ちゃんにも使える低刺激な軟膏です。安価であり、薬局で購入することも出来ます。利用者様の臀部に使ってみて下さい。皆さんの日々の業務で出来た手荒れにも効果があります。試して効果を実感して下さい。

【メモ欄】